



秋の全校校外学習となかよし班活動

教育課題 三宅 功起

今年は天気の都合で、11月1日（金）、砧公園に秋の全校校外学習に行ってきました。

秋の学習では、往復路の移動をなかよし班ごとで行い、なかよし班対抗でオリエンテーリングも実施しました。オリエンテーリングは、縄跳び・ボール・計量・ジェスチャーからなる4つのエリアでゲームに挑戦しました。どの班も高学年を中心に楽しみながら活動していました。午後からは5年生を中心としたなかよし班遊びを実施し、6年生が5年生をフォローしながら責任をもって班をまとめている姿も見られました。また、今年は4年生も高学年の仲間入りになることを自覚して活動していた姿が印象的です。

なかよし班活動は17年前にスタートしました。主な活動には、月一回行われる「なかよし班遊び」や、毎日の「なかよし班清掃」などがあります。上学年児童は下学年児童の手本となる行動をとり、それを見た下学年児童は、よりよい行動のしかたを学びます。一つ一つの活動から、異学年交流のよさが見られます。今後も本校の特色ある教育の一つとして、なかよし班活動で子供たちが成長できるように、支援・指導していきます。

昭和大学体験学習

5年団 佐々木 朋子

第二延山小学校の特色ある教育の一つに「昭和大学との連携」があります。その中の一つである「昭和大学体験学習」を、5年生は11月11日に実施しました。

子供たちはグループに分かれ、「医学部・保健医療学部（看護学科）・歯学部・薬学部」の4つのうちの2つの学部を選び、体験しました。また、がん患者さんの心と身体の痛みを緩和する緩和ケアを専門とされる高宮先生による「いのちの授業」を全員が受け、貴重な学びの時間を与えていただきました。

選んだ学部で行う実践的な体験は、子供たちにとって大変興味深い学習となり、現場に立つ医師や看護師の方々から直接指導していただき、目を輝かせながら学ぶ子供たちの姿が至るところで見られました。また、いのちの授業では、「緩和ケアとは」「人間の価値とは」「死から生、いのちを考える」など様々なテーマから「生きる」ということを考え、「生きてくても生きられない人がいることを知り、悲しくなった。けれど、今を精一杯生きることが、今の自分にできる一番のことと知り、何事にも全力で取り組みたいと思った。」「生まれてきたこと自体が奇跡だと知り、親にありがとうと伝えたいです。」等々、多くの感想をもちました。

今回のような貴重な経験ができたのは、昭和大学の関係者の皆様のおかげです。また、事前学習として本校にお越しいただき、「夢の実現に向けて」と題して講義して下さった昭和大学の学生の皆様にも感謝申し上げます。この学びで得た成果は、2月の学習発表会で発表する予定です。ぜひ、ご覧ください。

命のつながりの授業

6年団 高橋 真美

11月6日、昭和大学病院長の板橋先生を講師にお招きし、命の大切さや生活習慣病のお話をしていただく「命のつながり」の授業がありました。初めに「生命の誕生」の話を、映像も交えながらしていただきました。“ぼくらが今ここにいるのは、奇跡の出会いから始まっていること”に驚きを隠せない様子だった子供たち。溢れるほどの愛情を浴び、大切に、大切に育まれた自分の命、友達の命の重みを、子供たちなりに受け止め、考える機会を与えていただきました。今回のこの授業を受け、「命の尊さについて改めて考えることができた」「見た目は個人によって違っても、命の重みはみんな同じなのだとわかった」「今までは、友達によくない言葉を言ってしまったこともあったけれど、一人一人大切な命だから、絶対にそういう言葉は言うてはいけないと思った」「10億分の1の奇跡で生まれた自分の命がとても大切なものだと感じて、育ててくれた親に感謝したいと思った」などという感想が多くあがっていました。また、生活習慣病予防の話もしていただき、不規則な生活を送っていると、後々の自分の体に影響を及ぼす怖さも教えていただきました。

子供たちはいずれ、“つないでもらった”命を“つないでいく”立場に回ります。命の重み、尊さのバトン次へしっかりつないでいけるよう、思いやりの気持ちを大切に、こころも体も健康な生活を送る力を身につけてほしいと願っています。